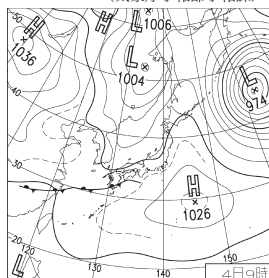


# 日々の天気図

— No. 87

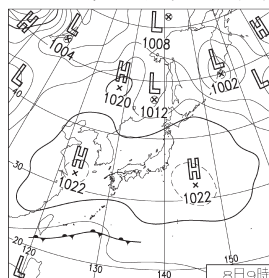
## 2009年4月

- ・17日、前線の影響で沖縄県と那珂町祖納で70.5 mm/1hの大雨。
- ・25日～26日、低気圧の影響で北日本を中心に大荒れ。岩手県岩手町小本169 mm、普及160.5 mmの日降水量。北海道中札内村上札内63 cm、北道道中札内村上札内63 cm、大崎44 cmの日降雪量。北海道えりも岬45.7 m/sの最大瞬間風速。  
(気象庁予報部予報課)



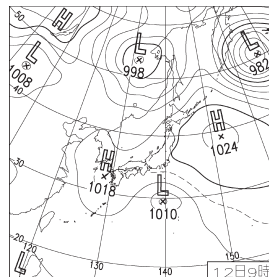
### 4日(土)西から下り坂

高気圧は日本の東海上に移動し、気圧の谷や前線が接近。西から雨の地域が拡大。日中晴れた北海道は最高気温が4月中旬～5月上旬並の陽気となる一方、雨の西日本では肌寒い。



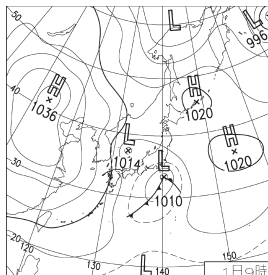
### 8日(水)春続く

本州付近は引き続き高気圧に覆われ広い範囲で晴れ。関東は乾燥した状態が続く。西日本と沖縄の一部で夏日。宗谷海峡を低気圧が通過し北海道で雨や曇り、長野市でサクラ開花。



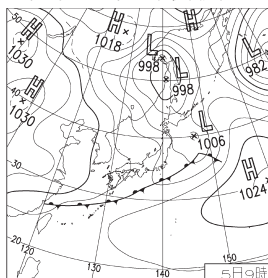
### 12日(日)晴天続く

高気圧に覆われ全国的に晴天のなか、北海道～九州の各地で5月～7月並の最高気温。中国・九州等ではわか雨。長野市と石川県輪島市でサクラ満開。



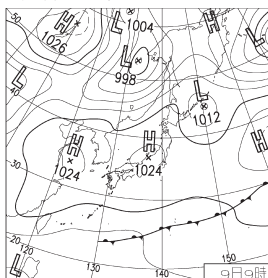
### 1日(水)雷雨の新年度スタート

日本付近には上空に強い寒気を伴った低気圧。東～西日本は大気の状態が不安定で、所々で雨や雷雨。鳥取市、山口市、山口県下関市でひょうを観測。三宅島で小規模噴火。



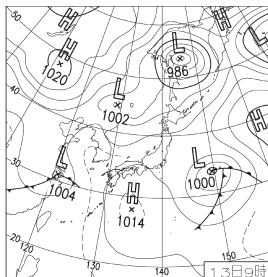
### 5日(日)京都市でサクラ満開

高気圧が張り出し晴れた所が多かったが、関東の南海上から南西諸島にのびる前線の影響で、九州南部～沖縄は雨。北海道は気圧の谷通過で所々曇りや雨。



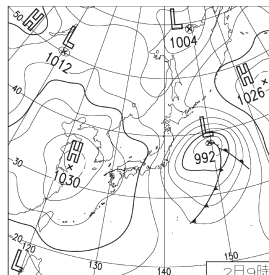
### 9日(木)各地で夏日

本州付近は高気圧に覆われて広い範囲で晴れ。暖かく空気の乾燥した状態が続く。東日本～沖縄にかけての各地で夏日。三重県亀山市の最高気温は、7月上旬並の26.8℃。



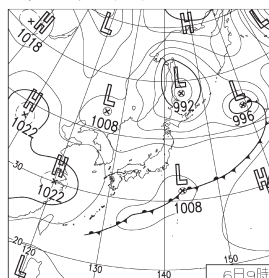
### 13日(月)九州～沖縄で雨

前線を伴った発達中の低気圧が東シナ海に進み、九州～沖縄にかけて次第に雨。その他は、引き続き高気圧に覆われ晴れ。山形市では、11日に開花したサクラがもう満開。



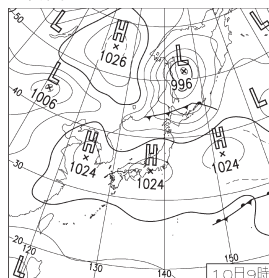
### 2日(木)東京のサクラ満開

発達中の低気圧が日本の東海上を北東進、全国的に北又は北西の風が強くなり千葉県銚子市では最大瞬間風速31.6 m/s。日本海側の所々で雨や雪、その他は晴れ。



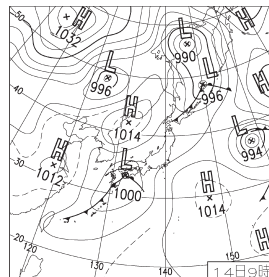
### 6日(月)サクラ 東北へ北上

南西諸島と北海道の一部では曇りや雨。その他は概ね晴れて、気温が上がり最高気温は4月中旬～下旬並み。福島市で平年より5日早くサクラ開花。



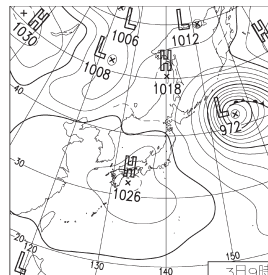
### 10日(金)早くも初夏到来

本州付近は東西に広がる帯状高気圧に覆われ広い範囲で晴れ。空気の乾燥した状態が続く。東北南部～沖縄の各地で夏日となる。群馬県館林市の最高気温は7月中旬並の29.0℃。



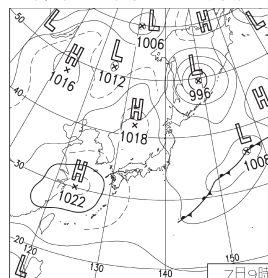
### 14日(火)久々の本格的な雨

本州の南岸を低気圧が北東進。全国的に雨。午前中は西日本、その後は東～北日本中心に降り、鹿児島県屋久島町尾之間で61.5 mm/1h、北海道は日中晴れ。秋田市でサクラ開花。



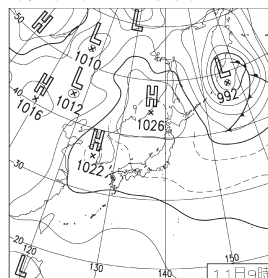
### 3日(金)春らんまん

移動性高気圧に覆われて中国以北では晴れや曇り、九州や南西諸島は曇りや雨。東日本の最高気温は軒並み4月中旬～5月上旬並と高く、名古屋市、和歌山市等でサクラ満開。



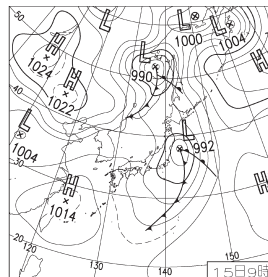
### 7日(火)関東以西汗ばむ

高気圧に覆われて広い範囲で晴れ間が広がる。東北と先島諸島の一部は雨や曇り。東北南部～九州の所々で最高気温が5月上旬～下旬並。仙台市、新潟市でサクラ開花。



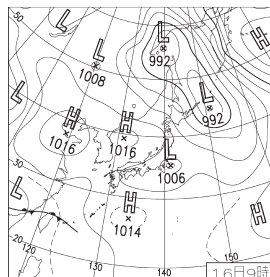
### 11日(土)山林火災相次ぐ

高気圧に覆われ南西諸島を除き全国的に晴天が続く。関東甲信や東海は6月～7月並の最高気温で、東京都千代田区も夏日。全国で空気の乾燥した状態が続く、各地で山林火災発生。



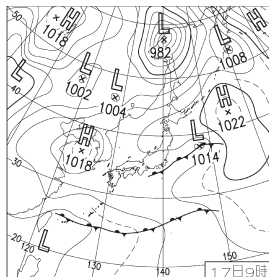
### 15日(水)天気は急速に回復

発達中の低気圧が関東の南岸から三陸沖へ進み、未明にかけて関東では強い雨の降った所も。東日本では日中、天気は急速に回復し晴れて気温上昇。東京でツバメ初見。



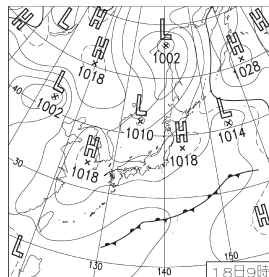
### 16日(木) 関東の一部で雷雨

日本付近の上空に寒気が流れ込み、午前中に日本海側で雨。夜には関東の一部で雷雨となり、宇都宮市でひょう。千島近海の低気圧の影響で北日本の一部で雪。



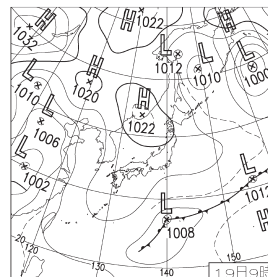
### 17日(金) 関東は肌寒い一日

前線が三陸沖から東海沖にのび、東海～東北南部で曇りや雨。北海道や近畿以西は概ね晴れ。南西諸島は前線の影響で雨。沖縄県与那国町で70.5 mm/1hの非常に激しい雨。



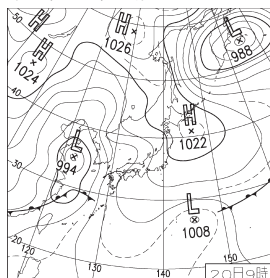
### 18日(土) サクラ 本州最北端へ

北海道北部は気圧の谷の影響で曇りや雨。その他は概ね晴れたが、関東は午前中曇り。サクラが満開となった盛岡市では、最高気温18.9°Cで5月上旬並み。青森市でサクラ開花。



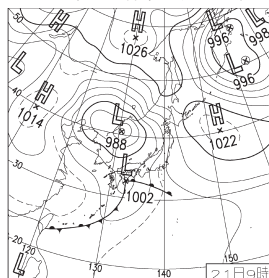
### 19日(日) 今年初の真夏日

日本付近は高気圧に覆われ朝から広く晴れ。近畿～九州は気温の上昇が顕著で、最高気温が平年より10°C前後高い所が続出。広島県、大分県では真夏日の所も。小笠原諸島は雷雨。



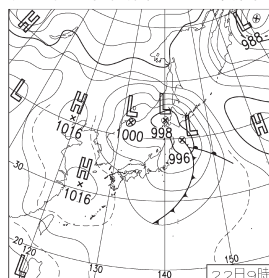
### 20日(月) 天気は西から下り坂

低気圧や前線が東シナ海に進み、九州や沖縄では雨が降り出した所も。高気圧に覆われた北日本では晴れ。その他の地方では概ね曇り。天気は西から次第に下り坂。



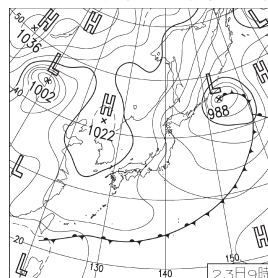
### 21日(火) 日本海側で強風

低気圧が日本海を北東に進み、未明に日本海側を中心に強風。北日本で雨。別の低気圧が日本の南岸を通過し、太平洋側を中心に広い範囲で雨。南西諸島は前線の影響で雨。



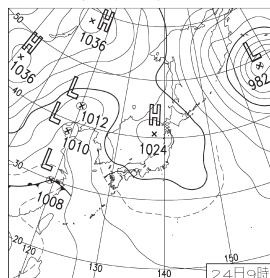
### 22日(水) 北日本 荒れた天気

低気圧が日本の東海上を北東に進み、荒れた天気。南西諸島は暖かく湿った空気の流入で雨。その他は高気圧に覆われ晴れ。関東甲信では気温が上がり25°Cを超えた所も。



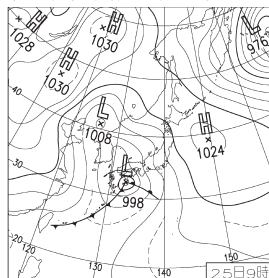
### 23日(木) 西高東低の気圧配置

日本付近は、西高東低の気圧配置となり北日本日本海側～北陸で雨。北海道では雪の所も。南西諸島は雨。その他は概ね晴れ。最高気温は一部を除いて3月中旬～4月中旬並。



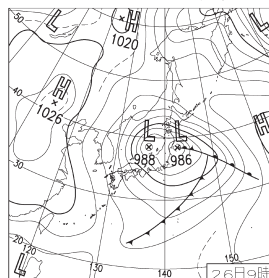
### 24日(金) 西から低気圧接近

移動性高気圧に覆われ、北日本中心に晴れや曇り。関東の最高気温は平年より3～5°C低く、1か月前の気温に逆戻り。夜には九州全域で雨となり、関東の一部も雨。



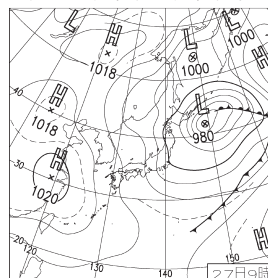
### 25日(土) 二つ玉低気圧

低気圧が発達しながら日本の南岸を進み、日本海にも別の低気圧が発生。太平洋沿岸の地方では荒れた天気となり日降水量100 mmを超える大雨となった所も。函館でサクラ開花。



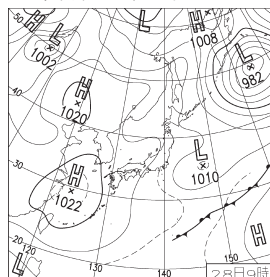
### 26日(日) 三陸沖 発達した低気圧

全国的に強風、海は大しけ。東北では4月の極値を更新する大雨。北海道太平洋側では大雪となり、北海道中札内村で日降雪量63cm。沖縄県で黄砂。



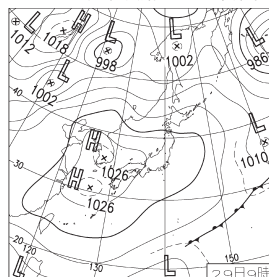
### 27日(月) 天気回復

発達した低気圧が北海道の東海上を、北東進。このため北海道では東部を中心にはじめられた天気だったが次第に回復。その他の地方は高気圧に覆われて概ね晴れ。



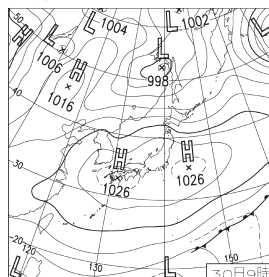
### 28日(火) 朝 冷え込む

日本付近には寒気が入り、最低気温は北海道の一部で平年並みの他は、3月中旬～4月上旬並み。日中は北海道の一部を除いて概ね晴れたが、夕方にかけて所々でわか雨。



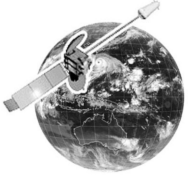
### 29日(水) 連休初日は全国で晴れ

日本付近は高気圧に広く覆われ、全国的に乾燥した晴天。最低気温は3月下旬～4月上旬並と朝晩は肌寒いですが、日中はこの時期らしい暖かさ。大型連休の本格スタートは行業日和。



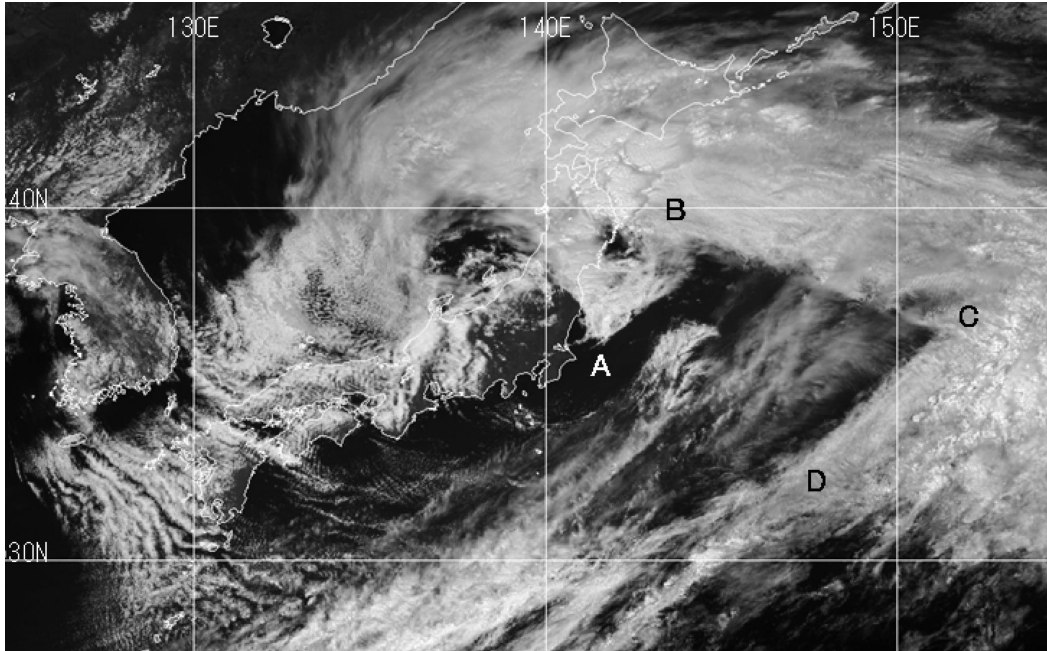
### 30日(木) 全国的に晴天持続

日本付近は、帯状の高気圧に広く覆われ乾燥した晴天が持続。北海道東部では、乾燥した強い西風が吹き、所々で夏日。釧路市阿寒町中徹別の最高気温は27.3°Cで全国第1位。



## 今月のひまわり画像—2009年4月

### 幾何学的に特徴的な雲の境目

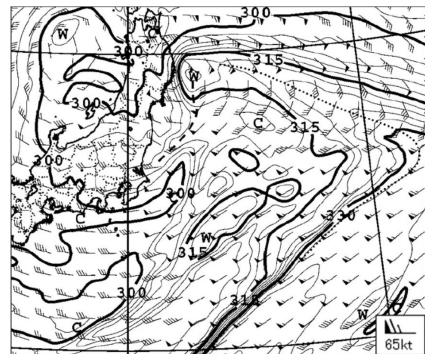


第1図 26日12時30分の可視画像。

4月26日は、日本の南岸を発達しながら進んできた低気圧が三陸沖に進み、また日本海には別の寒冷低気圧が発生し、大陸から強い寒気が南下した。このため、北海道網走支庁の北見では18～24時の間に28 cmの積雪を観測し、1980年の統計以来4月としては第1位の記録となった。また、青森では満開の桜の中雪が降り、積雪2 cmと最も遅い積雪となった。

第1図は26日12時30分（日本時間）の可視画像で、三陸沖の低気圧に近い岩手県から青森県付近には発達した積乱雲が見られ、山陰沖と九州の西～南海上にかけては、寒気に伴う筋状の雲が現れている。

ところで衛星画像には、時々幾何学的に不思議な形の雲が発生する。第1図のA～Dの四角形の雲の境目がそれにあたる。この雲の境目は何に対応しているのだろうか。ここで26日12時初期値のMSM850 hPaの風と相当温位（第2図）を見ると、A～Bは鹿島灘から三陸沖の低気圧の中心にのびるシアーライン（破線）に、B～Dは寒気移流と暖気移流の境界（点線）



第2図 26日12時のMSM：850 hPaの風（1 kt = 0.514 m/s）と相当温位線（3 K毎）。

とほぼ一致していたほか、同時刻のMSM700 hPaの乾燥域の分布（図省略）も似たような形状をしていた。

第1図のC点の鋭角、航空機からはさぞ不思議な光景であっただろう。

（気象庁総務部航空気象管理官付 原 基）